

中山間地域等直接支払制度

活動組織名	市町村	協定面積	発表の主なテーマ
戸島内集落協定 発表者：柴田誠	北秋田市	24ha	<「マタギの里」阿仁戸島内地区の棚田の保全活動> ・日本一の棚田面積 25ha（年間40万人の観光客） ・草刈、素掘水路の維持管理、U字溝の補修 ・ブランド米「天空の舞い」の生産 ・集落の維持、農地保全、景観美化
横岡集落協定 発表者：佐藤輝一	にかほ市	159ha	<鳥海山麓の美しい棚田を未来へつなぐ協定活動> ・鳥海山麓の段差のある水田 ・集落協定への取り組み 5団地（グループ） ・助成の活動活発化、農道、水路の利便性向上、建設的意見、集落行事の円滑化～対策の継続要望
松岡集落協定発表者：宮原正明	湯沢市	119ha	<美しい松岡の里づくりのために> ・農地・水と中山間のダブル実施（隣接） ・農道・水路の維持管理、体験農園、無人ヘリによる農作業、広報誌の発行

講演

農業用水源の保全・再生に向けた新たな取り組み

東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター

教授 古米 弘明

「我が国の水資源と水利用」から説き起こし、「農業用水と水質基準」では、水田の取水量は近年減少傾向にあり、農業水利施設の整備では生態系・環境への配慮から多面的機能を発揮する取り組みが必要であると説明され、八郎湖の水質にも言及された。また、ご自身が関与された神奈川県、主に飲料水の水質問題に触れ、単にダム湖等の水源の水質改善に取り組むだけでなく他県と連携して上流域の森林の整備を図った方が効果的でコストも少なく済むと話された。

「水源環境管理に向けた今後の課題」では、上流と下流の住民が意識を共有して地域・

流域特性を考慮した計画を作るとともに後追いの、対処療法的な対策ではなく、水質監視モニタリング等科学的知見に基づく管理統合システムの構築が重要であるとされた。また、特定の工場排水等、汚染源をポイントとしてだけでなく農地、水田等面的に捉える必要があり、情報の公開や住民参加の体制づくりが求められていると述べられた。



▲古米教授講演

農村防災・災害対応実証調査

吉田沢ため池で
「ため池災害訓練」実施

近年、集中豪雨や地震による災害が頻発している中、ため池を始めとする農業用施設等においては、農村地域の都市化、混住化や施設の管理者の高齢化が進行して、管理が粗放化するなど、防災・減災等の的確な対応が懸念される状況になっております。

本事業は、このような状況に対応するため「農村災害ボランティア(※1)」を活用して、市町村や施設管理者等に対する災害対応の指導體制等の整備を推進するもので、19年度から農林水産省の補助で、全土連が事業主体として実施しており、秋田県土連は、21年度に北海道土連、岐阜県土連、兵庫県土連とともにモデル道県として事業実施しております。

「ため池訓練」は、秋雨前線の影響で遅れ気味だった稲刈りも終わった、10月20日の13時に、本県が震度5弱の地震に襲われたことを前提に、秋田市北部の吉田沢ため池(新城川土地改良区)において実施されました。当日は、ため池の管理者である新城川土地改良区の全面的な協力の下、農村災害ボランティア8名を含む関係者35名の参加により、①非常警戒体制時の連絡網の

チェック ②ため池の被災状況調査について行いました。このような「訓練」は、県土連、秋田県農村災害支援協議会としても初めての試みでしたが、ボランティアを始めとする関係者の熱心な取り組みにより、16時をもって終了しました。



▲堤頂部の亀裂調査(訓練)



▲被害状況報告(訓練)

また、11月19日、秋田市において本事業の「現地検討会」が行われ、この「訓練」に参加したボランティアを含む関係者のほか、国2名(農林水産省、東北農政局)、事業の中央検討委員3名など、関係者25名による活発な意見交換がなされました。

県土連としては、この結果を受けて12月末までに調査報告書を提出することになっており、全土連、農林水産省は全国のデータを基にH23年度までにマニュアル化することになっております。



▲現地検討会

(※1) 農村災害ボランティア：農業用施設等の防災・災害復旧に関する知見を有し、ボランティアとして活動する意向を持つ技術者。(現在、県内で62名が登録)

平成21年度 農業農村整備技術強化対策事業

「団体営事業支援研修(施工技術研修)」

平成21年11月10日(火)～11日(水)、秋田市「秋田県社会福祉会館」において団体営事業者を対象に標記技術研修が66名の参加のもと開催された。

この研修は、発注者支援を視野に入れ、設計・積算・施工管理に関する専門的知識の修得により団体営事業担当技術者の技術力向上を目的にブロック毎に開催されるもので、本県がH21～H22東北・北海道ブロック連絡協議会の事務局を担当していることから本県での開催となった。開催に当たり本会の黒子高夫専務理事が「今回のテーマは、9月開催のブロック会議で決定して



▲黒子専務あいさつ

おり、近年の事業内容の複雑化や技術の高度化・多様化が進んでいる中で、農業農村整備事業を円滑かつ、適正に推進するため、市町村、土地改良区等関係職員、土地連の技術力向上を図る各種研修はこれまで以上に重要になってきていると考えている。政権交代という政策の転換期にあっても農家のために、農村のために我々土地改良人がなすべきこと・使命や視点をしっかりとしなければと思っている。今回の研修会等が皆様にとって有意義なものとなるようご祈念申し上げます」と挨拶した。

1日目 11月10日(火)



▲奥室長

○東北農政局整備部設計課奥直樹事業調整室長が農業農村整備事業の情勢についてと題して講義された。

①国際的な食料事情の変化②農業農村の現状③農業農村整備事業の展開方向近年の主な施策について、本県の取り組み事例を交えて説明された。



▲山信田係長

○土地改良技術事務所山信田智子設計技術第2係長が土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の改定についてと題して①パイプライン設計における耐震設計の考え方について具体的な設計の流れについて②水撃圧の推定方法(経験則と計算により方法の区分)の見直し③補修・補強に関する技術資料の整備について説明頂くとともに④新技術の取り込みに

ついて、管路の曲線布設等の事例等を交えて基準書の発刊前の最新情報を提供、解説頂いた。



▲大出係長

○東北農政局整備部 水利整備課 大出薫施設管理係長がストックマネジメント(補修・補強方法)についてと題して、

①補修工法・補強工法について②「農業水利施設の機能保全の手引きーパイプラインー」の策定③ストックマネジメントに関する制度等の講義され、事業実施について受講者との活発な質疑応答(大型の柵工の改修等)がなされた。

2日目 11月11日(水)



▲藤原上席主幹

○秋田県農林水産部農地整備課水利整備・防災班藤原和信上席主幹(兼)班長が秋田県における基幹水利施設ストックマネジメントについてと題して秋田県の事業実施例について施工写真を用いた説明の後、県外受講者に向けて本県の農業の概要として大規模複合経営体の育成等の取り組みが紹介された。

○水土里ネット秋田農地整備部農地整備班石井淳主査が、環境配慮工事の実施例(本城頭首工魚道)と題して、設計に至るまでの経緯として研究者とのやりとり等、実施設計者の立場から具体的な説明と、完成した現場の動画を交えた講義に受講者との活発な質疑応答(魚道の勾配設定や、魚の遡上の実態と地元の評価等)がなされた。

平成21年度 土地改良関係団体役員講習会を各支部で開催



▲雄勝支部

平成21年度土地改良関係団体役員講習会が11月12日の平鹿支部を皮切りに9会場で開催された。この講習会は土地改良区役職員の資質の向上と最新の農業情勢や課題の把握等に資するため毎年実施しているもので、788名が参加した。講習会のメインテーマは「土地改良区が行う滞納処分について」で、近年、土地改良区の未収賦課金が増加するとともに長期化、高額化する傾向にあり、組合員に対する滞納処分が避けて通れない状況にあることから秋田県の税務職員に講師をお願いし、滞納処分の実務を中心に講義が行われた。

土地改良区が行う滞納処分の財産は主に不動産(農地)で、抵当権が設定されている場合が多



▲山本支部

く、回収に苦心していたが、講義では動産に対する差押えの詳細な説明があり、参加者は熱心に聴き入っていた。また、「農業農村を取り巻く情勢と土地改良団体の役割」と題し、全国水土里ネットの茂木吉成参与から講演頂き、土地改良区の果たすべき役割と期待は以前にも増して大きくなっており、①地域の農地や農業用水施設を適切に管理する方法②土地改良区を充実強化する方法③地域社会、地域政策と共存していく方法④地域を活性化していく方法について関係者が真剣に考えるべきであると述べられた。

次の方々からご講義頂きました。ご協力ありがとうございました。(敬称略)

❖土地改良区が行う滞納処分について

秋田県総務企画部税務課副主幹 唐津信浩
秋田県総務企画部税務課主任 浅利英樹
秋田県総務企画部税務課主任 樋口英幸
北秋田地域振興局県税部副主幹 長内一宏
北秋田地域振興局県税部副主幹 小林伸也
北秋田地域振興局県税部主事 菊池麻維
平鹿地域振興局県税部副主幹 後藤昭市
平鹿地域振興局県税部副主幹 小西泉

❖GT(グリーンツーリズム)を活用した 秋田型コミュニティビジネスについて

秋田県農林水産部農山村振興課長 菅原徳蔵

❖秋田県農業農村整備事業の展開

秋田県農林水産部農地整備課事業調整監 松橋久光
秋田県農林水産部農地整備課副主幹 佐藤暢芳

❖管内状況報告

鹿角振興局農林部農村整備課長 小野富夫
北秋田振興局農林部農村整備課長 中川正之
山本振興局農林部農村整備課長 佐々木義男
秋田振興局農林部農村整備課長 倉部明彦
由利地域振興局農林部農村整備課長 戸田一夫
仙北地域振興局農林部次長 湊正明
平鹿地域振興局農林部農村整備課長 中村章
雄勝地域振興局農林部農村整備課長 藤田馨